

■ 展覧会スケジュール 2025(令和7)年4月 - 2026(令和8)年3月

月	2025 令和7 4	5	6	7	8	9	10	11	12	2026 令和8 1	2	3	
企画展	平間至写真展 僕にとってカメラは楽器! 4月24日(木)～6月24日(火)			パンドろぼう展 7月3日(木)～8月31日(日)			棟方志功展 9月12日(金)～11月5日(水)		330年の祈り 円空展(仮称) 11月13日(木)～2026年1月13日(火)			創刊50周年記念 花とゆめ展 in 広島 2月19日(木) ～4月14日(火)	
常設展	令和7年度第1期 3月13日(木)～6月17日(火)			令和7年度第2期 6月19日(木)～9月23日(火)			令和7年度第3期 9月25日(木)～12月16日(火)			令和7年度第4期 12月18日(木)～2026年3月3日(火)			
満月夜間 開館日	13日(日)	13日(火)	11日(水)	11日(金)	9日(土)	8日(月)	中秋の名月 6日(月) 満月 7日(火)	5日(水)	5日(金)	—	—	3日(火)	
休館日	毎週水曜日	毎週水曜日	毎週水曜日 (11日開館) (12日休館)	毎週水曜日	毎週水曜日 (13日開館)	毎週水曜日	毎週水曜日	毎週水曜日 (5日開館) (6日休館)	毎週水曜日 (24日開館)	毎週水曜日 12月26日(金)～1月1日(木・祝)休館	毎週水曜日 (11日開館) (12日休館)	毎週水曜日	

※令和7年2月14日現在。会期及び展覧会の名称は変更となる場合があります。定例以外に休館する場合があります。

■ 企画展

平間至写真展
僕にとってカメラは楽器!
4月24日(木)～6月24日(火)

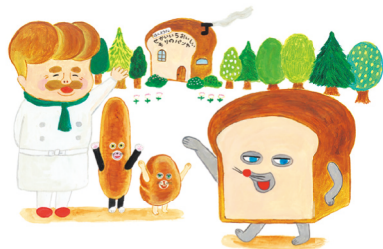
タワーレコードのキャンペーン「NO MUSIC, NO LIFE.」をはじめ、1990年代から現代まで多数のアーティストを撮影し、「音楽が聴こえてくるような躍動感のあるポートレート」が高く評価されている写真家・平間至。本展では「写真と音楽」をテーマに、CDや雑誌のために撮り下ろしたアーティストのポートレートや、東日本大震災を機に開業した写真館での活動など、写真表現の可能性を追求し続ける平間至の世界を紹介します。



《1992年》
©Itaru Hiram

パンドろぼう展
7月3日(木)～8月31日(日)

パンドろぼうは、絵本作家の柴田ケイコ氏による大人気絵本シリーズ。意外性のある絵や展開が子どもから大人まで楽しめる作品です。本展では100点を超える原画作品や、ラフスケッチを展示いたします。また、パンドろぼうの作品に入り込んだようなフォトスポット等も登場します。親子でパンドろぼうの世界をお楽しみください。



©Keiko Shibata/KADOKAWA

棟方志功展
9月12日(金)～11月5日(水)

白と黒の力強いコントラストや大胆な線による画面構成、裏面からの彩色など特徴的な技法も駆使した作品で知られる、棟方志功。「板画」と呼ぶ独特な木版画を通して世界的に評価され、没後50年を迎える今日もなお人々を惹きつけています。本展では作家の郷里・青森に遺る貴重なコレクションにより、初期から晩年に至る棟方の画業をご紹介します。

330年の祈り 円空展(仮称)
11月13日(木)～2026年1月13日(火)

江戸時代初めの寛永9年、美濃国(岐阜県)に生まれた円空(1632-95)は、32歳から亡くなる64歳までの30年余りの間に、全国各地に仏の教えを広めながら12万體ともいわれる膨大な像を彫り遣しました。確認されるだけでも5400体近くにのぼり、庶民の祈りの対象として今もお受け継がれています。没後330年にあたる今、円空の荒々しくも慈愛に満ちあふれた神仏像をとおして、その個性的なスタイルと伝え継がれる祈りの形をご紹介します。



《観音菩薩》
稲沢市板葺町・阿弥陀堂
(一宮市博物館寄託保管)
天和2(1682)年以降

創刊50周年記念
花とゆめ展 in 広島
2月19日(木)～4月14日(火)

2024年5月に創刊50周年を迎えた少女まんが雑誌『花とゆめ』。本展は50周年を記念する「パーティー」をキーワードに、幅広い世代の方々に『花とゆめ』の作品が切り開いてきた少女まんがの世界、読者に届けてきたときめきと感動の数々を、約200点の原画やラフ資料などの関連展示でお楽しみいただく展覧会です。



© 美内すずえ/白泉社